

オーストリアの再生可能エネルギー政策¹

—証書システムの失敗と固定価格買い取り制への移行—

A：証書システムがうまくいく必須条件—義務量と罰則—

1. 義務量 (Quota)

⇒市場参加者にとって新規投資を刺激するのに十分なほど高くなければならない。

⇒義務量によって、**証書市場の大きさ**が決定される。

2. ペナルティ (Penalty/Incentive)

⇒ペナルティは再生可能エネルギーの生産コストよりも高く設定されなければならない。

⇒事業者が（ペナルティを払うよりも）証書を買う**インセンティブ**を創り出すように、ペナルティは高く設定されなくてはならない。

B：オーストリアの‘小水力証書システム’ (SHC)

1. オーストリアの既存の 2 つの再生可能エネルギー推進制度

	小水力 <10MW	他の自然エネルギー (バイオマス、風力、太陽光等)
目標 (2007 年 10 月 1 日)	8 %	4 %
制度	証書 (S H C)	固定価格買取制
義務	国内の電力業者、消費者	系統会社
ペナルティ	地域ごとに異なるペナルティ	均一のペナルティ

2. オーストリア S H C の問題点

①義務量：現状の生産量とほぼ同じ量

⇒少量すぎて、新規投資を刺激するのに十分ではない。

⇒雨量の多い年には、義務量は既存の小水力発電プラントだけでまかなえてしまう。

② ペナルティ：安すぎる、地域によって価格が異なる

⇒ 地域（県）によってペナルティが異なる（1.0174～4.28cent/kWh）為、市場の流動性がない
[図 1、図 2 参照]。

⇒ 安すぎて、小水力発電プラントの建設コストをカバーするのに十分ではない。

3. オーストリアの今後の再生可能エネルギー政策

・ 2003 年から水力を含めた全ての再生可能エネルギーが固定価格買い取り制へ移行

・ SHC(証書システム)はボランタリーの RECS へ移行

➢ 証書管理のためのオンラインシステム

➢ 国内でペナルティを統一するための政治的努力が進行中

¹ Mag. Dr. Marianne Moscoso-Osterkorn, MA (Head of International Relations, Austrian Power Trading GmbH) の資料を参照して作成

(図 1) 地域ごとに異なるペナルティ²

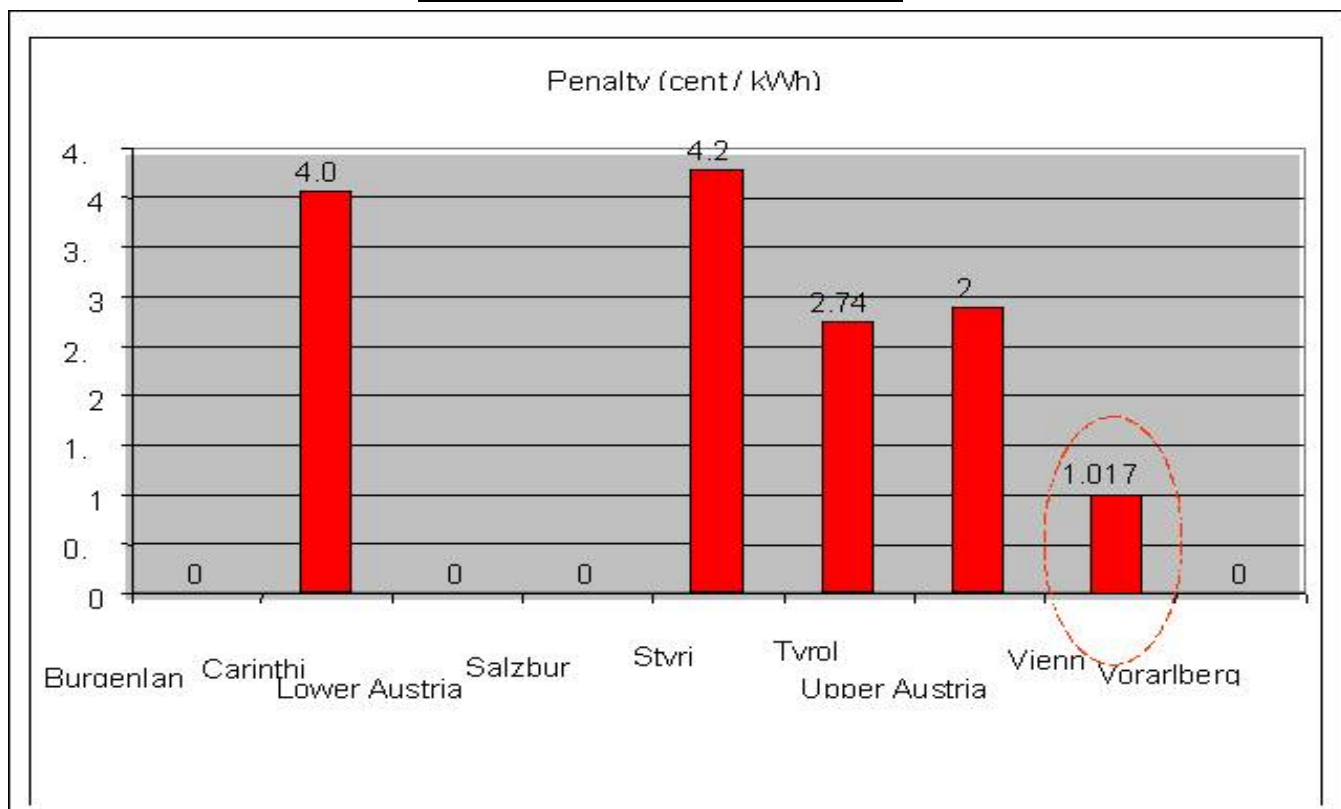
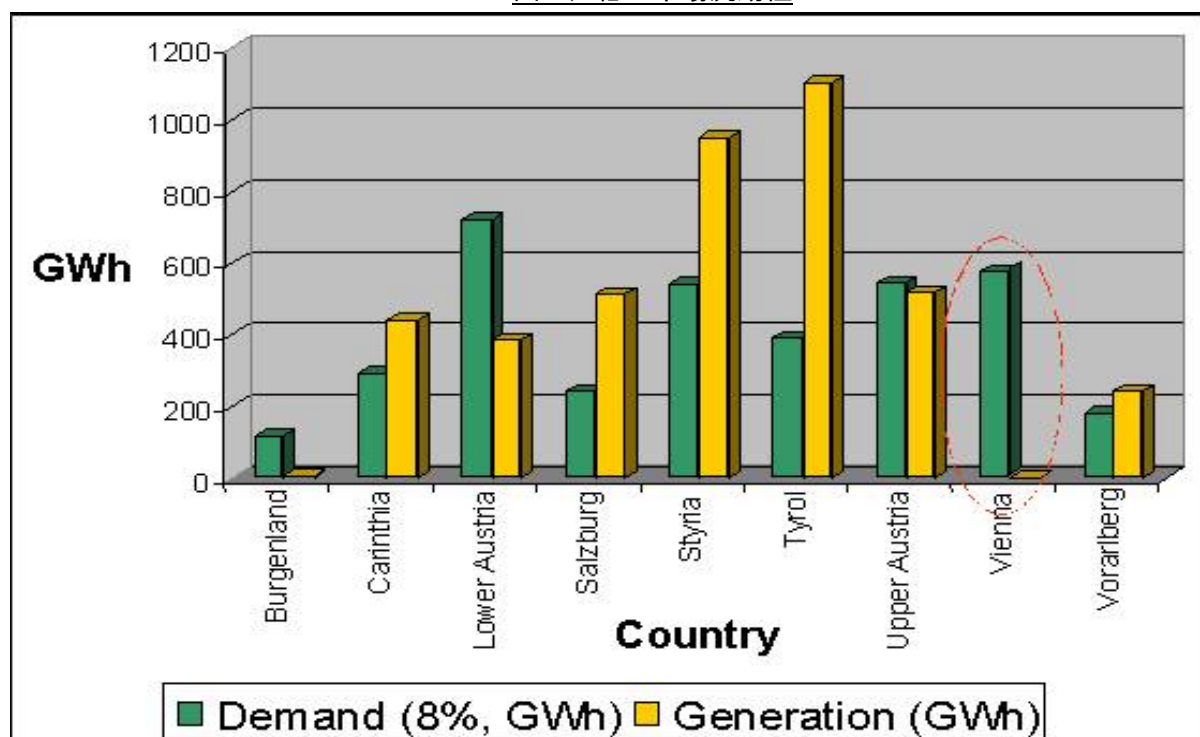


図 2) 低い市場流動性



→ペナルティが最も少ない地域では、証書に対する需要が最も高くなっている。

² 図 2,3 ; Mag. Dr. Marianne Moscoso-Osterkorn, MA 'Impact of a national certificate system on international system like RECs in Austria' (Presentation on 6 March 2002 in London)